



▲ 遠藤さんと奥さん

私の視点からのベトナム紹介

ベトナム紹介

国名:ベトナム社会主義共和国(首都:ハノイ)
人口:9000万人
国土面積:日本の90%くらい
国民の平均年齢は29歳で、平均年齢を見ると国民の大半が若者ということです。街は子供ばかりでパワーが国中から溢れている感じです。

最初の印象

2004年、私は日本語教師として初めてベトナム ハノイに来ました。その時のベトナムの印象は「臭い、汚い、うるさい」でした。私が夢見ていた、あのトロピカルな南国とはまるで別物だったんです。空港降りたらヌクナム(ベトナムの魚醤)の臭いに包まれ、タクシーの運転手は窓からゴミをポイ。そしてタクシーの前後左右からバイクのクラクションがピーピー。先が思いやられました。

あれから行ったり来たりありますが、合計7年くらいベトナムで生活しています。



▲ 市場に売られる子ブタ

ベトナムで子育て

2015年、ベトナム人の女性と結婚して、現在は奥さんと一歳の娘と、妻の田舎からおばあちゃんをハノイに呼んで4人で生活しています。家庭内では、文化、考え方の違いで毎日がバタバタです。特に子育てに関することはお互い譲れません。

例えば、ベトナムでは、ママはいい母乳を出すために豚足だけをたらふく食べます。乳腺が確実に詰まります。あり得ないです。おばあちゃんは、お粥を自分の口でもぐもぐしてから赤ちゃんの口に押し込むとします。ピロリ菌が…。あり得ないです。

でも、そんなカルチャーショックは実は全く問題ではないのです。

バスで赤ちゃんが泣き出した場合、日本なら周囲の目が気になり参ってしまいます。しかし、ここベトナムは全く心配ないです。バスの中で赤ちゃんが大声で泣き出しても知らない人たちが「元気だね」って声をかけてくれたり、知らないおばあさんが寄ってきてあやしてくれます。いつの間にか泣いている赤ちゃんの周りに人が集まっています。今の日本では見られない光景だと思います。時々、ベトナム人って図々しいなあと感じますが、しかし、多くの場合、この人と人との近い関係に助けられ感謝しています。

自分を幸せと感じるすばらしさ

数年前、ある調査でベトナムは幸福度ランキングで世界第2位になりました。ベトナムはまだまだ発展途上の国です。経済レベルも日本と比べものになりません。信じられないような貧しい人々も多いです。それでも、自分の生活に満足し、そして幸福に感じている人々がたくさんいるんですね。その日の食べるものがあって、家族がみんな元気で、一つの部屋で川の字で寝られれば最高!!と感じる。何でもあって便利で経済的にも恵まれているのに、幸せと感ずることができない日本人とは真逆の発想です。これってすごいことだと思います。

私たちはこの考え方ができるベトナム人を見習うべきかもしれません。



▲ たくましい子どもたち

ベトナムは何か教えてくれます

ちょっとだけ疲れた人はベトナムに来てもらうと、ちょっとだけ楽になるかもしれません。ベトナムに来て、仕事もしないでハンモックで昼寝しているベトナム人を見ながら、灼熱のオープンカフェで濃くて甘いベトナムコーヒーをちびちび飲めば、何だか余計な力が抜け、自然体の自分になれるかもしれませんね。

それから子供たちにも社会勉強になると思います。「ベトナムにはまだ野球がないので野球を広めよう。」も勉強。「臭い、汚い、もう行きたくない。」も、これまた勉強です。

以上が私の日常から見たベトナムです。

では、ベトナムでお待ちしています。



(遠藤さんをご自身のブログ (<http://shinji0802endo.blog.fc2.com/>)でも日々のベトナムを紹介されています。)

※海外レポートは随時掲載していきます。

財団事務所から こんにちは!

今回から鳥取県国際交流財団の3事務所から活動紹介や近況報告をお届けしていきます。

第1回目の本所は、鳥取市にある鳥取空港国際会館1階にあります。



第1回 本所

こんな活動をおこなっています

英語圏と中国語圏出身のスタッフが、 母国語でも困りごとなど相談に応じます

英語はアメリカ出身のゼノス・トレメイン、中国語は中国出身の梁玉蘭と覃潔が対応し、必要に応じて、医療機関や福祉相談センターなどの関係機関へ取次をいたします。

メールでも対応はいたしますし、業務上知り得た個人情報は他所へ漏らしませんので、ご安心ください。



世界各国の民族衣装や 民芸品、国旗を無料で 貸し出しています

カウンター職員のビャンバ(モンゴル出身)が対応しています。



鳥取県JICAデスクがあります

ご希望により国際協力推進員による、国際協力出前講座を事務所で実施することもできます。例えば、県内高等学校の生徒さんたちが来所し、青年海外協力隊としての体験談を熱心に聞かれたこともありました。この中から国際協力の分野に進まれる方もいるかもしれませんね。



申請取次行政書士が 相談に応じます

毎月第2日曜日14:00~16:00
相談は無料です。

事前予約が必要で
す。
通訳者の手配も
いたします。



鳥取県国際交流センターを運営しています

県より委託を受けて財団が管理・運営しています。交流や情報交換に、どなたでも利用していただけます。ここに並ぶ書籍は、日本語教育や外国語の学習教材などを豊富に揃えており、貸出も行っています。また、キッズスペースやDVD教材を視聴できるスペースも設けています。



■ [左上] 各国留学生の憩いの場
[右上] 図書の様子
[左下] 1対1で日本語学習

職員一同、みなさまのご来所をお待ちしております。
外国語が勉強したい、料理教室をしたいので講師を紹介してほしいなどのご相談にも快く対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

JICAデスクより お知らせ

青年海外
協力隊だけじゃ
ないんです!



あなたの会社のユニークな技術・製品で途上国のコマリゴト、解決してみませんか?

☆ 中小企業海外展開支援事業 ☆

モロッコで農業に挑戦しています!

株式会社鳥取再資源化研究所(東伯郡)

使用済みガラスびんと貝殻から作られた、保水性・透水性のあるガラス発泡素材「ポーラスα」は、同社のユニークな製品。その特徴を活かせば、少しの水で野菜を育てることができます。

雨がほとんど降らないアフリカ・中東では、農業のための水が十分に確保できず困っています。そこで、同社は砂漠の国モロッコで「ポーラスα」を使って「少しの水で、たくさんの野菜を収穫する」ことを目標としてプロジェクトを行っています。

野菜の収量が増えることで、所得が増えると現地の人々の暮らしもよくなります。

JICAではこのプロジェクトを支援しています。



▲ 特許素材ポーラスαに水をかけるとどうなるか実験中

インドでゴミの減量に 取り組んでいます!

三光株式会社(境港市)

急速な都市化と人口増加でゴミ処理が追いつかず困っているインド。

同社のコンポスト製造技術で、有機ゴミを減らすことができればゴミ処理全体が円滑化し、現地の環境もよくなります!コンポストで生産された有機肥料は農業にも使えて一石二鳥。JICAの協力のもと調査を行い、これから、その次の段階であるパイロット事業を展開します。